

## 事務事業評価表（補助金等）

1次評価日（主幹等） 30年3月30日

2次評価日（課長等） 30年3月30日

1 事業名	次世代産業参入環境整備支援事業補助金			コード	11212	
2 担当部課	部等	産業振興部	課等	工業振興課	担当者	下田 典弘
3 事業概要	目的体系	基本目標	魅力と活力にかふれる、にぎわいのあるまち			
		政策	基幹産業の振興	施策	工業の振興	
		事務事業	次世代産業参入環境整備支援事業補助金			
		予算科目	ものづくり基盤技術強化事業	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
	根拠法令等	岡谷市次世代産業参入環境整備支援事業補助金交付要綱				

## ●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	補助金	② 期間	28 年度 ~ 30 年度
補助金の種別	その他事業補助	③ 対象	事業者
④ 制度の内容	次世代成長産業分野である、医療分野、航空・宇宙産業分野において、参入に有効となるISO13485とJISQ9100の認証取得に必要な経費の一部を補助する		
⑤ 積算方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISO13485（医療機器の品質保証に関する国際規格） 補助対象経費の2/10以内 限度額50万円</li> <li>・ JISQ9100（航空宇宙産業における品質マネジメント規格） 補助対象経費の2/10以内 限度額50万円</li> </ul>		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	国際規格や日本工業規格の認証取得により、他企業との差別化を図り、新規受注開拓が促進される。		

## 5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数		2	2	2
実際の支出件数		1	1	
執行率	-	50.0%	50.0%	
② 金額（円）				
予算額	0	1,000,000	1,000,000	1,000,000
財源内訳				
一般財源		1,000,000	1,000,000	1,000,000
特定財源		0	0	0
* 特定財源（負担割合）の説明				
実際の支出金額		500,000	500,000	
予算執行率	-	50.0%	50.0%	
支出額の前年度比		-	100.0%	

## ③ 29年度の交付先

・ ISO13485 (株)スワコー

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)		高い
評価項目		はい	いいえ			
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1		5		
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。	1		5		
③	全ての対象者に交付している。	1				
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。	1				
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1				
⑥～⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)				
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。			0		
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。			5		
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。					
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。					
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、使途を検証している。					

7 有効性評価		* 有効性=成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性		高い
評価項目		はい	いいえ			
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1				
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1				
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1				
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。	1				
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比	100.0%	1	

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること) 今後発展が期待される分野への参入を支援するものであり、国、県においても新規成長産業への参入を促進しているが、新たな認証取得のために約250万円程度、企業の負担が必要となる。
	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 引き続き、市内中小企業が新規成長産業分野へ参入しやすい環境を作る必要があるため、平成31年度においても継続していく。
改善方法	
改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------